

議 事 録 要 旨

会 議 名 称	令和2年度 第2回加古川市総合計画審議会
開 催 日 時	令和2年7月7日（火）午後2時00分から午後3時30分まで
開 催 場 所	加古川市民会館 大会議室
出 席 者	<p><総合計画審議会委員></p> <p>会長 岸本 敏和</p> <p>副会長 釜谷 和明</p> <p>委員 大松 光寿、大庫 隆夫、柿本 和博、菅野 佳明、久保田 八平、河野 真、鹿多 証道、関 千咲、高橋 憲司、達可 明朗、津田 貞裕、中島 喜勇、中田 邦也、中山 文美代、西 正勝、堀井 祐信、三輪 康一、森口 てるみ、守家 和子、山本 勝</p> <p><加古川市></p> <p>企画部長 井ノ口 淳一</p> <p>企画部次長 神戸 生也</p> <p>企画部参事 竹中 重夫</p>
会 議 次 第	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>（1）加古川市総合計画（原案）について（P.3～46）</p> <p>（2）パブリックコメントの実施結果について</p> <p>（3）次回の開催日程について</p> <p>（4）その他</p> <p>3 閉会</p>
会 議 資 料	<p>1 次第</p> <p>2 加古川市総合計画（原案）</p> <p>3 パブリックコメントの実施結果について</p> <p>4 加古川市総合計画審議会の今後の日程</p>
傍聴者の数	3人

審議内容（発言者、発言内容、審議経過等）	
	<p>1 開会</p> <p>（委員の出席状況）</p> <p>審議会委員24名中、20名の委員が出席していることから、加古川市総合計画審議会規則第6条第2項の規定により、本審議会が成立したことを確認。（※確認後、遅れて2名出席）</p> <p>2 議事</p> <p><u>（1）加古川市総合計画（原案）について（P.3～46）</u></p> <p><u>（2）パブリックコメントの実施結果について</u></p> <p>※（1）加古川市総合計画（原案）についてと合わせて事務局から説明</p>

	<u>1章 策定の趣旨 ～ 3章 総合計画の構成 (P.3～4)</u>
(事務局)	<事務局説明> (質疑応答)
(委員)	中核市への移行について、「加古川市中核市移行調査検討報告書（平成29年3月）」では、看過できない課題が多くあることから、まずは、子育て支援や市民協働などの重点施策を着実に実施することを優先し、中核市移行に関する情報収集や研究を継続するとまとめられている。実質的には、中核市への移行は困難であるという認識であるが、このたびの総合計画原案は、その前提で整理されているという認識でよいか。この認識が異なると、政策を検討する上で方向性が大きく変わると思うので、確認させていただきたい。
(事務局)	中核市への移行については、ご認識のとおりであり、本計画に中核市への移行に係る趣旨は含めていない。
	<u>4章 本市を取り巻く社会経済環境 ～ 5章 将来人口 (P.5～28)</u>
(事務局)	<事務局説明> (質疑応答)
(委員)	6ページの「2地域コミュニティ」における、課題に対応した【本市の主な取組】として、東加古川公民館と東加古川子育てプラザの複合施設の整備が挙げられるのではないかと。公民館を利用する世代と、子育てプラザを利用する子どもの交流は、地域交流の一つであるため、取組をアピールする上でも記載をしていただきたい。
(事務局)	東加古川公民館と東加古川子育てプラザの複合施設については、多世代交流や世代間交流というコンセプトも有している。その他、子育て支援というコンセプトもあるが、ご意見をいただいたため、まずは「2地域コミュニティ」において記載を検討させていただく。
(委員)	23ページの「(3) 製造品出荷額等」について、「鉄鋼業の増減に応じて変化しており」とある。近年、企業において、生産性の改善が課題とされている中、近隣市の企業において、設備の導入や更新により、大幅な人員の削減が行われた事例がある。このように、特に大企業における生産性の

	<p>改善が雇用の維持に影響を与えることが考えられ、市の将来人口にも影響があるのではないかと考えている。その反面、新型コロナウイルスの影響で在宅勤務が取り上げられる中、東京や大阪に通勤しなくても在宅で働くことができるようになってきている。これらを踏まえると、5章の将来人口において、急激な人口減少を見込む一方で、まちの安全性など市の特徴を伸ばすとともに、在宅勤務環境の整備などを進めることで、人口減少の抑制につながるのではないかと考えている。</p>
(委員)	<p>福祉分野においては、地域貢献を果たすことを目指し、現在、市内の41の社会福祉法人で構成する、「加古川市社会福祉法人連絡協議会」を令和元(2019)年7月24日に設立した。このため、9ページの【本市の主な取組】の1点目に、「市内の社会福祉法人との連携・協働」、または、「社会福祉法人連絡協議会との連携・協働」という文言を追加していただきたい。</p>
(委員)	<p>28ページの「5章将来人口」において、人口ビジョンにおける令和8(2026)年の人口が261,511人となっている根拠及び、国立社会保障・人口問題研究所の推計との相違点について教えていただきたい。</p>
(事務局)	<p>平成27(2015)年度に策定した人口ビジョンに基づく数値と国立社会保障・人口問題研究所が示す数値の違いは、合計特殊出生率である。人口ビジョンでは2040年に合計特殊出生率2.07を達成するとした場合のシミュレーションとしている。また、加古川市においては、平成27(2015)年度以降、転入者数と転出者数が均衡するという仮定のもと推計している。本市の人口動態の現状としては、人口ビジョンを下回る数値となっているが、今後の人口推計については、「加古川市まち・ひと・しごと創生戦略会議」において検討する予定としている。</p>
(委員)	<p>7ページの「3子育て・教育」における【本市の主な取組】について、「加古川市第2期子ども・子育て支援事業計画」に基づく取組である場合は、その旨を記載していただきたい。また5点目の児童虐待防止対策について、市は、令和4年度までに、さらなる虐待防止予防、早期発見、発生時の迅速かつ的確な対応を行うための子ども家庭総合支援拠点を整備するものと認識している。このことから、児童虐待防止対策は最重要かつ喫緊の課題であるため、拠点整備に関する記載を追加していただきたい。</p>
(事務局)	<p>4章1節の【本市の主な取組】については、現在本市が取り組んでいる内容を中心に記載しているため、今後の取組については、今後開催予定の部会で議論いただく各施策の方向性等でご検討いただきたい。</p>
(委員)	<p>10ページの「5環境」において、1行目の生物多様性の危機に含まれるのかもしれないが、海洋プラスチックごみ汚染の問題と、ヒアリや新型コ</p>

	<p>新型コロナウイルス感染症なども今後流行することが予想されるため、その旨を追記していただきたい。</p> <p style="text-align: center;"><u>6章 まちづくりの基本理念 ～ 7章 将来の都市像 (P29)</u></p>
(事務局)	<p><事務局説明></p> <p>(質疑応答)</p>
(委員)	<p>「7章将来の都市像」について、「加古川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本方針において、子育て世代に焦点が当てられていることから、「とりわけ未来を担う子どもたちや若い世代が、将来に夢や希望を描くことができるまちをめざします。」という表現に「子育て世代」を追記していただきたい。</p>
(事務局)	<p>総合計画は、市民の皆さまや事業者の皆さまをはじめ、すべての人に関係するため、「とりわけ」という表現のもと、若い世代にフォーカスする形で整理している。このことから、「子育て世代」については、「加古川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で重点的に位置づけて検討していきたいと考えている。</p>
(委員)	<p>基本理念について、現行の総合計画では「ひと・まち・自然を大切にし、ともにはぐくむまちづくり」とあるが、原案では「ささえ」という文言が追加されている。このことについて、どのような思いがあって「ささえ」という文言が追加されたのか。</p>
(事務局)	<p>これからのまちづくりの役割は「ひと」であるという考えのもと、今後人口が減少することに加え、社会環境が変化し、人と人とのつながりが希薄化する中においても、持続可能な発展を遂げていくことが必要である。そこで、まちづくりの役割である「ひと」同士の、より一層の支えあいが重要になると考えている。また、これまでの基本理念については、令和3年度以降のまちづくりにおいても重要であると考えているため、これまでの基本理念をベースにしながらも、新たな要素として「ささえ」という言葉を追加している。</p>
(委員)	<p>「6章まちづくりの基本理念」の「ひと・まち・自然を大切に」という表現があるが、市南部にある児童福祉施設において、鉄粉の飛散が目立ち、車にも付着するほか、施設の窓を開放していると室内が鉄粉だらけになる。このことについて、市はどのように対策しているのか。</p>

(事務局)	鉄粉の影響については、本市の長年の課題と認識しており、環境部門において、適宜対応しているが、総合計画に具体的な記載まではしていない。
(委員)	パブリックコメント№.9のSDGsに関する意見内容について、産業界はSDGsに注目している。意見内容のとおりSDGsのゴールに基づいた考え方の整理は分かりやすいと思う。
<u>8章 まちづくりの基本目標 ～ 10章 まちづくりの進め方 (P30～36)</u>	
(事務局)	<p><事務局説明></p> <p>(質疑応答)</p>
(委員)	31 ページの1 「(2) 地域における教育・学習環境を整備する」において、学習環境とは、アフターコロナへの対応ではなく、例えばトイレ改修や施設の長寿命化などを指しているという理解でよいか。
(事務局)	ここでいう学習環境とは、学校以外の場における、生涯学習や体験活動などの環境を指している。
(委員)	<p>30 ページの「8章まちづくりの基本目標」について、事務局から説明があった各基本目標の内容を追記してはどうか。</p> <p>また、31 ページの「9章まちづくりの方向 (施策の大綱)」において、「子どもたち」や「子ども」という言葉が使われているが、例えば「子どもたち」というと青少年のことを指すのか。言葉の使い分けについて教えていただきたい。</p>
(事務局)	言葉の使い分けについては文章の内容に合わせた表現としている。なお、青少年については、中高生など比較的高い年齢層を意識している。
(委員)	32 ページの2 「(3) 市民生活の安全・安定を確保する」において、「消費者の正しい選択・行動を促す」という表現は、行政が消費者に対して上から目線であるような印象を受ける。このため、表現の修正をお願いしたい。
(事務局)	消費生活行動の主体である市民の皆さまの被害を未然に防止することが行政の役割の一つであると考えている。このため、情報の発信や啓発などに取り組んでいくことを踏まえて記載しているが、表現については検討させていただく。

(会長)	<p>「町内会」や「自治会」、「地域」という言葉があるが、例えば、町内会と言っても、現状は高齢化が進んだ町内会や若い人が多い町内会など三者三様である。また、「地域」という言葉が指す範囲も様々だが、そうした言葉が指す範囲や内容、またその根拠を明確にしていきたい。</p>
(委員)	<p>30 ページの 8 章「4 快適なまち」について、基本目標名の「快適なまち」という表現からは具体的な取組がイメージしづらい。34 ページに施策の大綱が記載されており、主に都市計画や基盤整備に関する内容となっている。このうち、「機能的・効率的なまちを形成する」という言葉と「快適」という言葉に少しずれがあるように思われる。そのため、基本目標の名称を改めて検討すべきではないか。</p> <p>また、34 ページ 4 「(1) 機能的・効率的なまちを形成する」の 2 段落目において、「秩序あるまちなみと、地域特性を生かした良好な景観の形成」と記載があるが、機能的・効率的なまちの形成と景観に配慮することは対立的な考え方である。施策「②秩序あるまちなみの形成」は、基本目標「5 うるおいのあるまち」に含まれる内容ではないか。</p>
(事務局)	<p>基本目標「4 快適なまち」については、委員のご指摘のとおり、都市計画分野や建設分野に関する施策を中心に構成している。その中で、従来の都市計画から各都市機能の集約化に向けて転換していく流れになっていくことを想定している。</p> <p>当施策については、いただいたご意見を踏まえ、施策体系について検討させていただく。</p>
(委員)	<p>子どもの貧困対策について、7 ページの「3 子育て・教育」には記載があるが、31 ページの 9 章 1 「(1) 子どもの健やかな成長を支援する」のほか、50 ページ以降の各施策において記載がない。これについては、32 ページの 2 「(1) とともに支えあう福祉社会を実現する」か、31 ページの 1 「(1) 子どもの健やかな成長を支援する」のどちらで記載を検討するのか、考え方を教えてほしい。</p>
(事務局)	<p>31 ページの「9 章まちづくりの方向（施策の大綱）」については、50 ページ以降における施策ごとの基本方針や施策の方向性を集約する形で内容を整理している。今後、部会において議論いただき、その結果を踏まえて、9 章の記載を整理したい。</p> <p>また、子どもの貧困に係る内容をどの施策に位置付けるかについては、50 ページに記載している、結婚・出産・子育てに係る施策が子どもに係る内容を広く含んでいることから、この施策に位置付けることが適切と考えている。</p>
(委員)	<p>33 ページの「3 活力とにぎわいのあるまち」において、産業振興は人口</p>

	<p>問題の視点から重要な課題である。その中で、「(1) 農業・水産業を振興する」について、「水産業の持続的な発展」や「漁業経営の安定」との記載があるが、加古川市における水産業の産業規模や従事者数などの具体的な数値などを教えてほしい。</p> <p>次に、「(2) 工業・地場産業を振興する」について、地場産業の具体例や、従事者数等の規模について教えてほしい。</p> <p>また、「(3) 商業・観光を振興する」について、「食の観光化を推進する」とあるが、推進するのは「食」だけではないと考える。「食」を取り上げるのであれば、「にくてん」や「関東煮」についても、加古川市に昔からあることから、かつめしとあわせ、3つ並べて取り上げていただきたい。</p> <p>その他、在宅勤務の環境整備について、整備が進むよう市が投資されてはどうか。現実的には、自宅で在宅勤務する困難さも多くあることから、快適に働ける勤務場所を創出することが、市のアピールポイントの1つになるのではないか。</p> <p>また、播磨臨海地域道路の計画や東播磨南北道路の整備が進んでいるところであるが、それに伴い、物流センターなど新しい形の産業誘致に向けて整備を行うのはどうか。</p> <p>(委員) 委員の意見に加え、産業振興を考えるにあたってはロジスティクス※に力を入れて取り組むことが重要であると思う。</p> <p>※ロジスティクス：物流を顧客ニーズに合わせて、効率的かつ有効的に管理するシステム</p> <p>(事務局) 1点目の水産業については、平成25年の統計になるが、漁業の経営体数は41、水産業の生産額は約1,500万円である。</p> <p>2点目の地場産業については、靴下や国包建具などがあり、ふるさと納税の返礼品などで取り扱われている。</p> <p>3点目の食の観光化については、12章に係る内容でもあるが、近年、観光協会との協働により、加古川ギョッとメシやおくるみおやつなど、かつめしに続くご当地グルメの創出にも力を入れていることから、原案のとおり記載している。</p> <p>(委員) テレワークやリモートワークについて、私自身がリモートワークを行う中で2つの課題を感じた。1点目は先ほども挙げられた働く場所の確保についてである。もう1点は、会社の社風や制度などのソフト面の整備であり、ハード面の整備とあわせて進めていくことが必要だと思う。</p> <p>(委員) 委員の発言のとおり、在宅勤務が進むと勤務時間よりも勤務成果が重要となることから、会社も労働者も変わる必要があると思う。このたびの働き方改革という課題が、コロナの影響から加速的に進んでいる中、労使一体となって取り組む必要があると考えられる。</p>
--	--

(委員)	34 ページの4 「(1) 機能的・効率的なまちを形成する」において、「港湾における海上物流機能の強化を図る」とあるが、具体的な内容を教えていただきたい。
(事務局)	<p>ここでいう港湾は東播磨港を指している。東播磨港については、明石市から高砂市までの一帯を指し、金属機械工業品や鋳産品等の取扱量が多い重要港湾である。その一帯が協力しながら、物流機能の強化が図られることをめざし、記載している。</p>
	<p style="text-align: center;">11 章 都市空間の利用の方向性 (P37～46)</p>
(事務局)	<p><事務局説明></p> <p>(質疑応答)</p>
(委員)	<p>加古川市の知名度を上げるために、大学の部活動の合宿を誘致してはどうか。明石市や姫路市には城があるが、加古川市にはそうした建物がない。全国の大学から若い方々が加古川を訪れ、かつめしなど美味しいご飯を食べてもらいつつ、加古川の良さに触れていただくのがいいのではないかと考えている。</p>
(委員)	<p>40 ページの「(6) レクリエーション等の拠点」において、升田山を拠点として追記していただきたい。近年歩く方が増えていることから、日岡駅を拠点として、日岡神社から日岡山を經由し、池尻橋を渡って升田山に登山した後、水管橋を渡り日岡駅に戻るウォーキングコースがあればいいのではと考えている。</p>
(委員)	<p>45 ページの「4 節生活圏と行政サービスの展開の方向性」において、生活圏については、原案では段階的な生活圏を設定されている。これまでの総合計画においても、同様に設定された生活圏のもと、各施策が進められていることから、原案の大幅な変更はしていないように思われる。また、46 ページの「2 行政サービスの展開の方向性」については、これまでは、近隣住区や基幹的住区を中心とし、各地域に対して均等に施策を進めてきたと思われるが、今後は人口減少などから従来どおりに進めることが困難になることが考えられる。兵庫県の東播都市計画区域マスタープランでは、地域連携型都市構造への転換の中で、生活圏をスタティック*な段階で設定するのではなく、機能分担を図りながらネットワークでつなぐことを目指している。このように、従来の段階的な生活圏から、都市構造の転換に向けて、いくつかの行政サービスを例示的に挙げ、機能分担を図っていくなどの記載を加えるのはどうか。</p> <p style="text-align: right;">*スタティック：静的</p>

<p>(事務局)</p>	<p>行政サービスの今後の展開については、人口減少が進む中においては、具体的に踏み込んだ内容までは記載していないが、従来までの方法も含めてしっかりと考えていかなければならないと認識している。例えば、先日の定額給付金に係るオンライン申請など、市独自に進めている取組もあり、さらなる新しい取組にもチャレンジしていきたいと考えている。</p> <p><u>(3) 次回の開催日程について</u></p> <p>次回の開催日は、7月22日(水)午後3時からとする。</p> <p><u>(4) その他</u></p> <p>(質疑なし)</p> <p>3 閉会</p>
--------------	---